

研修だより NO.10

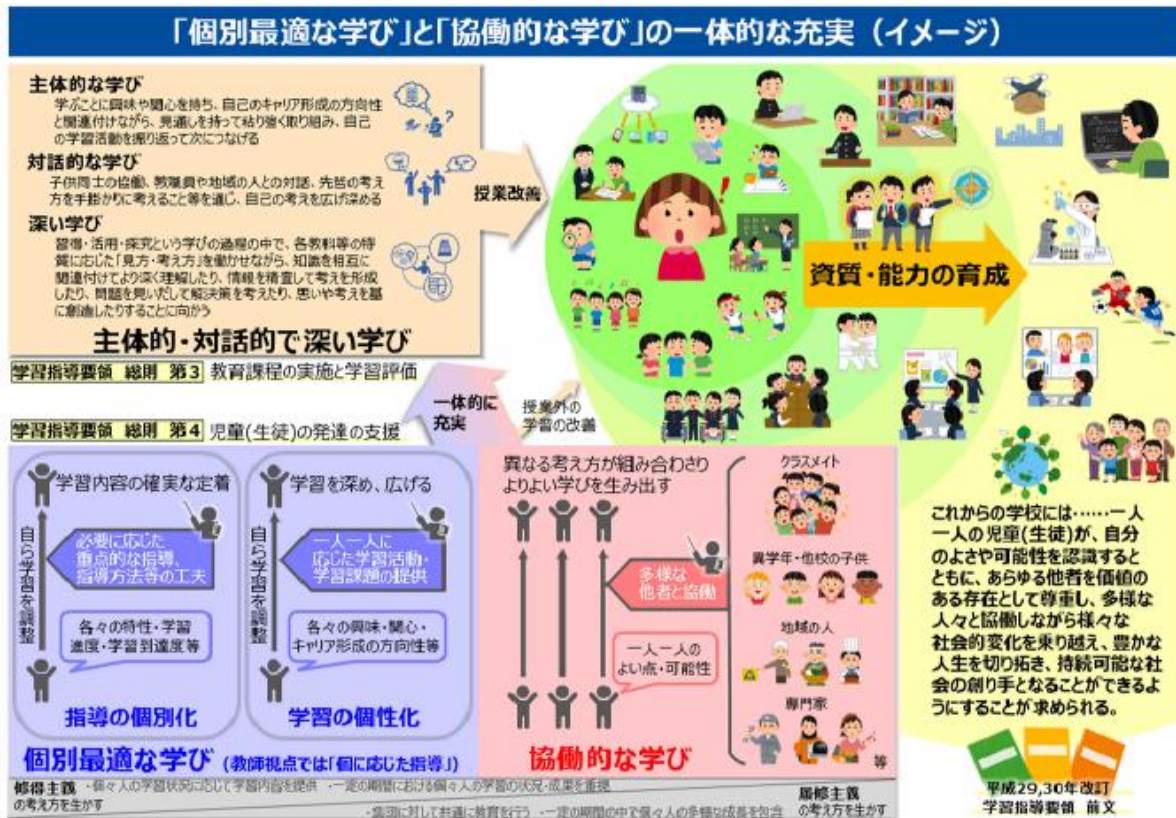
世羅町立せらひがし小学校

令和8年3月26日

《研究主題》

児童自ら学びを深める算数科授業の創造 ～協働的な学びを軸とした個別最適な学びの取組を通して～

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて



（学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）より）

※「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2点から説明されています。

	指導の個別化	学習の個性化
目的	全ての児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成すること。	子供の興味・関心やキャリア形成の方向性等に応じ、学習を深め、広げること。
アプローチ	一人一人の児童生徒の特性や学習進度、習熟度等に応じて、教師が指導方法や教材、学習時間などを柔軟に提供・設定する。	教師が子供一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供し、子供自身が自分にとって学習が最適となるよう調整する。
特徴	「一定の目標」を全ての児童生徒が達成することを目的としており、そのための「方法」を個々に合わせて変えるという側面が強い。	個々の児童生徒の関心に基づいた**「異なる目標」に向けて学習を深めていくものであり、児童生徒が自ら学習の方向性を考えるという主体的な側面が重視される。

※「指導の個別化」を通じて全ての児童に学習の基盤となる力を育み、その土台の上に「学習の個性化」によって個々の才能や興味を伸ばしていくという、両面からのアプローチが重要です。

～お悩み相談会～

普段の授業や生徒指導、児童への対応の中で、「こんな時どうしたらいいの?」「授業の内容を深めるためにどういう問いかけをしたらいいの?」など、悩みや困っていることを共有しましょう。共有したことから、いろいろな手立てを一緒に考えていきましょう!

(例)

【授業について】

○児童が「分かって楽しい」「考えてみたい」「やってみたい」と感じる授業の工夫

○発問の工夫（分かりやすい、多様な考えを出す）

○授業の時間配分の工夫

○児童が活発に発言できるようにするための手立て

○学習の定着が困難な児童への手立て

○授業に集中できない、姿勢が崩れる児童への指導

○児童の学力が定着しているのか不安

【学級・分掌・児童対応等について】

○宿題をしてこない児童への対応

○注意しても聞かない児童への対応

○児童との信頼関係の築き方

○児童との適度な距離感の保ち方

○教師がいなくても、児童だけで進めるための工夫（朝の会や帰りの会なども）

○仕事の優先順位をつけて行うことが難しい、タスク管理の仕方

○宿題の○付けが間に合わない、直しをやりきらせることが難しい。

○日々の業務に追われ、教材研究をする時間や児童一人一人と関わる時間が十分にとれない。